



- ①凍霜害が広範囲に見られ、王林やトキ、シナノゴールドなどで中心花の褐変や欠落が見られています。
また、地域や園地によって被害の強弱が見られます。被害が大きいと思われる園地では、作業遅れとならないよう新梢の花摘みなどを優先して進めましょう。
- ②黒星病の重点防除時期です。薬剤散布では、降雨前散布、前回散布から10日以内の散布を心がけましょう。
- ③SSの走行には十分注意し、けがや事故の無いように散布しましょう。

りんごの生態

下記を参考にし、適期散布に努めましょう【()は営農係での予想です】。

観測地点	年	ふじの開花日	ふじの満開日	ふじの落花日
森山	本年	4/30	5/6	5/10
駒木	本年	5/6~7	5/12	(5/18)
古懸	本年	5/2	5/8	5/14
りんご試験場	本年	5/3	5/8	5/13
	平年	5/7	5/12	5/16
	前年	5/7	5/11	5/14

薬剤散布

- ①生態と散布時期がずれている園地では、下の防除暦を参考に防除に当たります。
- ②7月初めの薬剤散布が7月初めに散布できるように、特別散布などを行い調節を行います。

回数 散布量	散布時期	里 散布が生態より 早い対策	参考日	山手 マメコバチ対策	対象病害虫	基準薬剤					防除の要点				
						薬剤名と混用順序	倍数	1,000ℓ当	収穫前 日数	使用 回数					
3 320ℓ以上	ふじの 開花直前 前回から10日 以内	5/1	5/4 ~6頃	5/4 ~6頃	黒星病、モニア病 腐らん病、うどんこ病 ミダレカクモン	展着剤 カナメF バイオマックスDF	4,000 2,000	250ml×1 500g×1	前日 前日	1回 -	① 前回から10日以内に散布します。				
4 350ℓ以上	ふじの 落花直後 前回から 10日以内	5/10	5/12 ~14頃	5/12 ~14頃	黒星病、うどんこ病 腐らん病、黒点病、斑点落葉病 リンゴハダニ、ミダレカクモン リンゴコカクモン	展着剤 ミギワ20F チオノックF バイオマックスDF	4,000 500 2,000	125ml×2 2ℓ×1 500g×1	前日 30日前 前日	1回 5回 -	① 前回から10日以内に散布しましょう。 ② リンゴハダニが多い園地では、バロックフロアブルも使用しましょう。				
5 350ℓ以上	ふじの 落花10日後 (5月下旬)	5/19	5/22 ~24頃	特別散布 落花5日頃 5/20頃 雨前チオノック 5/28頃	黒星病、斑点落葉病 すす点・すす斑病 うどんこ病、腐らん病 黒点病、ハダニ類、キンモン クワコナカイガラ	展着剤 ジマンダイセン水和剤 ユニックス顆粒水和剤 エルサン水和剤 カルマツチ クレフノン	600 2,000 1,000 770 100	1.67kg×1 500g×1 1kg×1 1.3kg×1 10kg×1	30日前 14日前 45日前 - -	3回 1回 2回 - -	生態より散布が早まり、落花 10日後頃が早く散布されるところ では、マメコバチに影響のな いように殺虫剤を抜くようにし まし、チオノックで調整を行 いましょう。				
6 420ℓ以上	ふじの 落花20日後 (6月上旬)	5/28 特別散布 落花25日頃 6/3 雨前チオノック	6/1 ~3頃	6/6頃	黒星病、斑点落葉病 すす点・すす斑病 うどんこ病、腐らん病 黒点病、ハダニ類 クワコナカイガラ アブラムシ、キンモン	展着剤 ジマンダイセン水和剤 スプラサイド水和剤 カルマツチ クレフノン	600 1,500 770 100	1.67kg×1 667g×1 1.3kg×1 10kg×1	30日前 30日前 - -	3回 2回 - -	クワコナカイガラが多い樹では落花 10日~20日後頃に胴木洗いを 行いましょう。				
7 500ℓ	ふじの 落花30日後 (6月中旬)	6/12	6/11 ~13頃	6/15頃	斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病、黒点病 腐らん病、炭そ病、褐斑病 キンモン、シャクリムシ モモンクイガ	展着剤 ジマンダイセン水和剤 ダイアジノン水和剤 カルマツチ クレフノン	600 1,000 770 100	1.67kg×1 500g×2 1.3kg×1 10kg×1	30日前 30日前 - -	3回 4回 - -	散布が前倒しとなり、生態と ズレが生じた場合は、 チオノックF 500倍など の特別散布により調整し、 7月初めの散布が7月初めに散 布されるようにしましょう。				
8 500ℓ	落花40日後 (6月下旬)	6/21	6/20 ~22頃	6/24頃	斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病、褐斑病 黒点病、腐らん病、炭そ病 ハダニ類、モモンクイガ キンモン、キンモン	無ボルドー方式 展着剤 オキシンドーWSB モスピラン顆粒水溶剤 カルマツチ					1,200 4,000 770	835g×1 250g×1 1.3kg×1	14日前 前日 -	4回 3回 -	
9 500ℓ	7月初め (7月上旬)	7/1	7/1 ~3頃	7/5頃	斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病 炭そ病、褐斑病、ハダニ類 モモンクイガ、キンモン キンモン、シャクリムシ	展着剤 オキシンドーWSB アーデントF エコマイト顆粒水和剤 カルマツチ	1,200 2,000 2,000 770	835g×1 250ml×2 250g×2 1.3kg×1	14日前 前日 7日前 -	4回 3回 1回 -	散布でお困りの方は 営農係までご相談くださ い！！				

- 展葉初期から降雨があると黒星病に感染する恐れがあります。
6月いっぱいまでは散布間隔10日以内で、ゆっくりといねいに降雨前散布をしましょう。
- 散布ムラの無いようにしましょう(SSの速度・散布量の見直し、樹の混み具合を解消するなど)
- 霧、朝露などで葉が濡れている場合は乾いてから散布しましょう。
- 7月上旬の薬剤は散布時期が合うように特別散布などで調整しましょう。

霜害をふまえた摘果

本年の開花状況を見ると、全般的に凍霜害の被害が確認されています。場所や地域、品種、樹によって被害の強弱が見受けられます。カマドの部分褐変しているものや中心花の脱落が見られておりますので、今後のガク立ちや品質を確認しながら、摘果遅れ、成らせ過ぎとならないように管理が必要です。

霜害の程度が強いと思われるところ

①新梢の摘花（果）を行う。

人工授粉や摘花を行えない場合は、一輪摘花はさけて新梢の摘花に全力を注ぐ。

②実立ちや生育を確認次第、予備摘果（一つ成り）は早く、仕上げ摘果はじっくり見極めながら行う。

被害があるからといって予備摘果を遅くすると、品質に影響するだけでなくジューンドロップの原因にもなります。

仕上げ摘果は、品質を見極めてから行いましょう（落花20日以降からサビ果などの品質がわかりやすくなっていきます）。

***成らせ過ぎや摘果遅れとならないよう十分考慮して摘花・摘果を進めていきましょう。**

参考：側果を残した場合の品種別傾向

品種	側果の場合
ふじ	比較的肥大します。
つがる、ジョナ	比較的肥大しますが、サビ果が多い傾向。また、ジューンドロップで落果しやすい傾向です。
シナノスイート シナノゴールド	サビ果が多い傾向。 シナノゴールドは摘果が遅れるとツルが硬く摘果しにくいいため、品質がわかり次第早目に摘果する。
玉林	小玉果、サビ果となりやすい傾向。

他県改良普及センター 資料抜粋

予備摘果 時 期	平均果重 /1果	糖 度	翌年の花 芽率 (%)
満開7日後	348 g	16.6	73
〃 17日後	311 g	16.1	58
〃 28日後	309 g	16.0	42
〃 37日後	311 g	16.1	28
〃 51日後	269 g	15.5	20

摘果剤について

摘果剤は果実表面から吸収されるため、散布量は十分に散布しましょう。

また、散布後高温が続くと効果が高いようです。

散布7~10日後に効果が見えてきます。

ミクロデナポンは中心果と側果の大きさに差があると、小さい果実（側果）の生育が阻害され落果や生育不良となります。*極端に樹勢の弱い樹には、散布を控えてください。

摘果剤使用方法	品種ごとの散布適期	
ミクロデナポン水和剤 1,200倍 (3500以上/10a) 展着剤を加用	ふ じ	8~10 mm
	ジョナ	15 mm
	つがる	14 mm
	玉 林	12 mm

使用時期	品種
満開後2週間後 タイプ	ふじ・陸奥・玉林・北斗・さんさ・早生ふじ・トキ・シナノスイート
満開後3週間後 タイプ	紅玉・星の金貨・ジョナ・つがる

世界一、千秋、もりのかがやき、ぐんま名月、ジョナ、つがるは落ちすぎる場合があるため注意しましょう。

恋空、シナノゴールド、きおうは摘果効果が低いです。